

今月の一言

キーワード：見込みがないこと

多くの人たちが賢い選択やチャレンジ精神を持ってないでいるのはなぜか。群れに欠陥があるのだ。ふだんは、誰もが何かの群れの中で暮らしている。家族も群れなら、学校や会社も一つの群れである。また、日頃から親しくつきあっている友人や知人という群れもある。ただ、形のうえでは同じ群れの中の一員でいても、しっかり自分というものを確立して、大勢に流されない人もいれば、流されてしまう人もいる。

群れの欠陥とは何か。それは、群れには特有の暗黙の了解があることだ。はっきり規則になっていなくても「そういうことはダメだよ」という掟のようなものがある。いったん、その群れに属すると、この掟が個人を縛る。その中でも際立っているのは、群れから飛び出すのを抑える性質のものである。群れというのは群れの秩序を守るために、異端を嫌うことが多い。それも異端を排除するのではなく、なるべくそういう行動を取らせないようにブレーキをかける。

ある人間が新しい試みを始めようとする。そうすると「やめたほうがよい」という意見が多く出る。「悪いことは言わない。やめておけ。それがあなたのためだ」群れは保守的な性格を持っているのだ。なぜかといえば、いままで仲良くまとまっていたいからである。群れ全体が危機に陥った場合は別だが、そうでなければ現状維持を求めるのが群れの論理である。なぜ、そうなるのか。多くの場合、群れのリーダーは既得権益を守りたい、その大勢は嫉妬や羨望の気持ちを味わいたくない。だから、全体のためには「こうしたほうがよい」という事柄でも、実行に移すことは否定的な意見がより多く出てくるのだ。

著者：川北義則

著書：群れから、離れよ！

For the one / あなたの一番になるために まず、やってみよう！

2016年2月25日

さいのう とおる

**追伸：おかげさまで、2月22日に創立64年目を迎えました！ありがとうございます。
全員で“三方よし”好循環サイクルをまわしましょう。**